



後藤 晴雄 脳神経外科部長

兵庫県出身 東京大学卒業 獨協医科大学付属病院勤務

2020年4月 城西病院入職

脳神経外科専門医 脳血管内治療専門医

「頭の病気は複雑で分かりづらく、まして手術をするとなると患者さんにとっては恐怖でしかありません。患者さんに寄り添い、治療をする。難しい中でやりがいのある分野です」と語る

後藤医師。医学部に入り、脳神経外科のゴッドハンドと言われる福島孝徳医師にあこがれ、脳外科を目指したと言います。

東京大学の脳外科に入局し、関連病院を経て、2018年に獨協医科大学附属病院に。2020年4月、城西病院に脳外科部長として赴任しました。城西病院で、脳の血管カテーテル治療や開頭手術なども行っています。

「城西病院では、脳神経外科に入院する患者の8～9割は救急車で運ばれてきます。脳血管障害は、年齢とともに多くなります。結城市に来て、脳血管障害の患者さんが多いと感じました」と話す後藤医師。頭の病気は血管障害、脳腫瘍、外傷に分類されますが、その7～8割が脳血管障害といい、緊急を要する治療が必要なケースも多いと言います。「大学病院では脳外科の領域の中でもさらに細専門化が進んでいます。脳外科医として、幅広い脳の領域で、多くの患者さんに携わりたいと思い、総合病院である城西病院を選びました」と城西病院に来た理由を話します。そして「体力のある若いうちに、少しでも多くの患者さんと接し、地域に貢献したい」とも語ります。

全国の脳外科医7～8000人のうち、脳カテーテル治療を行う医師は約1000人。茨城県内で脳カテーテル治療を行っている医師は約20人で、地域の病院で行っているのはごくわずかしかありません。後藤医師は、獨協医科大学附属病院にいる時には、年間約100件の開頭手術を行ってきました。「脳の手術は、さまざまな分野の治療とつながっていかないと完治することがありません。ご高齢な方も多く、リハビリが必要な患者さん、心疾患や糖尿病など全身疾患を併せ持つ患者さんなどがいる中で、病院の総合力が問われる部分でもあります」と話す後藤医師。「脳外科単独の専門病院にはない、総合病院としての可能性が城西病院にはあります。あらゆる科と連携して患者さんを治療していける。何より、病院スタッフがいろんなことをすぐに手伝ってくれます」と他科との連携やチームプレイの良さを語ります。「今、てんかんの患者さんに対して、自治医科大学附属病院と連携を行っています。城西病院で診療を行い、自治医科大学でその患者さんの手術や治療をしています。地域の中で、こうした病院間の連携を広げていきたい」と展望も示します。

趣味は、「子育て」と一言。忙しい診療が続く中で、「24時間体制で子育てにもあたっています」と笑顔を見せます。